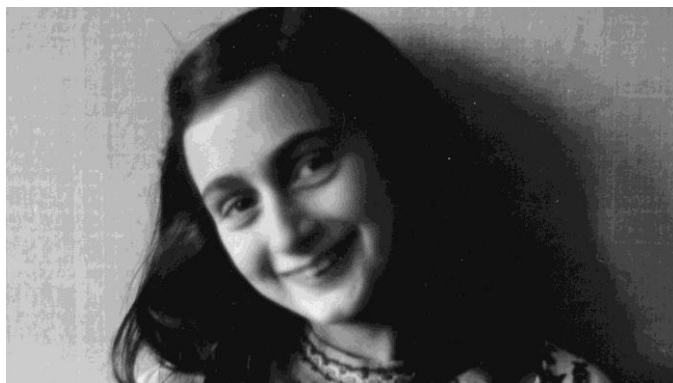


『Mind Charging』

第 30 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 5 月 15 日

アンネ・フランクの名言



**I keep my ideals, because in spite of everything
I still believe that people are really good at heart.**

私は理想を捨てません。どんなことがあっても、

人は本当に素晴らしい心を持っていると今も信じているからです。

第二次世界大戦中のドイツによる占領下のオランダ、アムステルダムが舞台となっている『アンネの日記』は、著者であるアンネ・フランクが 15 歳という短い生涯を終えた後、父親の尽力によって出版され、大ベストセラーになりました。

みなさんには目標があると思います。今はなかなか目標に対して動くことが難しい状況で、目標達成の可能性が見えにくく、不安を抱えていると思いますが、達成するための才能も可能性も大いにあります。チャンスは必ず訪れます！

彼女もみなさんと同じであるはずでした。そんな『普通の女の子』が健気に抱いていた夢や人生が、正当な理由もなく簡単に奪われるという残酷さを思い知らされる『知っていたほうがいい事実』を伝える自伝だと思えます。現在の私たちも世界的なパンデミックに見舞われ、『戦争状態』と表現されることもあります。彼女の場合は実際に戦火の中を、非情ともいえる人種差別を受けながら、文字通り『ひっそりと』生きるしかありませんでした。それでも理想を捨てず、人を信じられるなんて…。人の強さと愛情の深さを感じずにはられません。

『アンネの日記』や今回の言葉は、平穏な日々を暮らす人からではなく、差別や戦争の被害者からの『命懸けのメッセージ』です。私たちはこのことを重く受け止め、『心のつながり』を大切に、理想(希望)を捨てない努力を続けていきたいですね。平和を壊すのも維持させるのも人なので。それぞれが自分の力を信じ、この大きな目標を達成させましょう！

(編集委員：入試広報室 鈴木)

アンネ・フランク(アンネリース・マリー・フランク、ドイツ語: Annelies Marie Frank 1929 年 6 月 12 日 - 1945 年 3 月上旬)は、『アンネの日記』の著者として知られるユダヤ系ドイツ人の少女である。(Wikipedia 参照)